

ていねいな暮らしのあつたころ

佐野二彦の撮った伊深の里山

を引き、もう一人が後ろから押して補助をします。

冬に、隣町へ大八車でまきなどを運ぶときは、日が昇り霜が解けると道がぬかるんで引きにくくなるため、朝早く出発し凍った道を行きました。

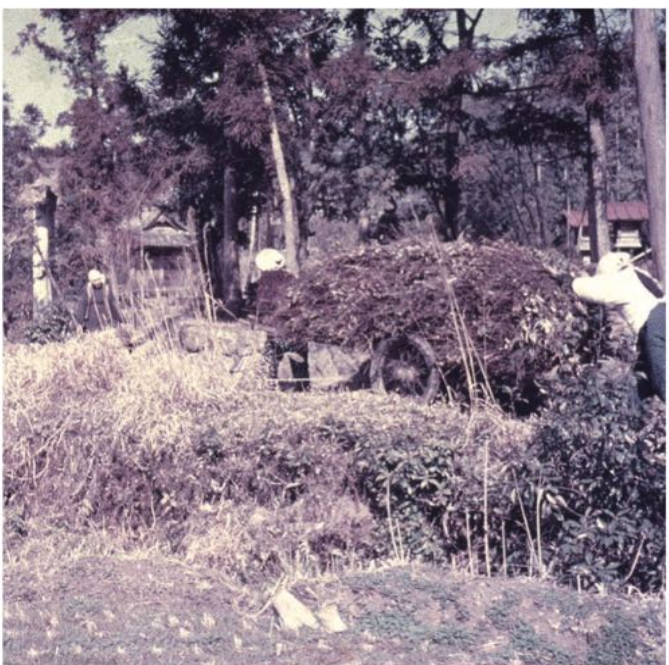


「背板」 昭和38年3月4日撮影

「運搬」

車が一般的に普及する昭和40年ごろまでは、物を運ぶときに、大八車やリヤカーといった荷車を人力で引いて運んでいました。

右の写真は、背板に稲わらをになって運んでいく様子です。背板は、まきや俵など比較的重いものを運ぶときに用いました。下の写真は、クド(かまど)などに使うシバ(あえ)を、山から刈り取って大八車に積んで運んでいる様子です。一人が前



「車に積んで山より出す」 昭和38年3月19日撮影

「ていねいな暮らしのあつたころ」は、今回で終了させていただきます。次回からは、「高橋余一の『生活絵巻』」を連載します。お楽しみに。